

「日々の理科」(第1386号) 2018 (H30), -4, 23
「目指せコンプリート! 春の野草探し(6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



子どもたちが突然、一箇所に向かって叫びながら走り出した。こういう光景は大抵、ヘビか奇っ怪なキノコか、石をひっくり返してアオズムカデが出てきた場合が多い。しかしこの時はちがっていた。ナズナを発見したのだ。



大学構内にある「イタドリ広場」(学生会館の中庭)は、日当たりが良く、多くの種類の野草が見られる。キク科(タンポポ、ノゲシなど)や、マメ科(カラスノエンドウ、シロツメクサ、アカツメクサなど)は多いのだが、どうもアブラナ科の植物はあまり見かけない。ナズナは東京でもごく普通の野草(雑草)だが、ずいぶん広範囲に探しても、なかなか発見できなかった。それがついに見つかったのだ。おかげで、野草のまとめシートもいよいよ完成が近づいてきた。



ナズナもなかなか見つからなかったが、帰り道の大学生協の前にある、ちょっとした草地で見つかった。



「やったー! コンプリート!! 見て見て!!」

たかが野草(雑草)探しで、こんなに嬉々として活動するとは驚きだった。実は、ホトケノザの同定が私も間違えていて、あとから訂正したのだが・・・



実物の野草を貼った「まとめシート」は、萎れないうちにカラーコピーをとって、子どもたちに配布、ノートに貼っておく。まさに、生きた野草図鑑の完成だ。